

君が好きです

結歌

私、桐島れいは下り坂をみかけると走って通らずにいけない。
小さいころからずっとそうなのだ。

そんな私は今日高校の入学式!!
校門の前に長い下り坂があり、
もちろん走って通っているところなのだが、
坂が急すぎる。ブレーキが利かない
こんなことははじめてでどうしたらいいのかわからない。
あ、前に人がいる。どうしよう!
このまま先輩らしき人にぶつかってしまう...

ドンッ

案の定私は先輩らしき男子生徒にぶつかってしまった。
謝罪をしようと思ったら背中に手が回って
私は片腕で抱きしめられように抑えられていた。
「大丈夫?怪我はない?」
こんなことをされたのは初めてで
心臓の音が凄かった。
「す、す、すみませんでしたっ...」

あわてて教室にかけていった。